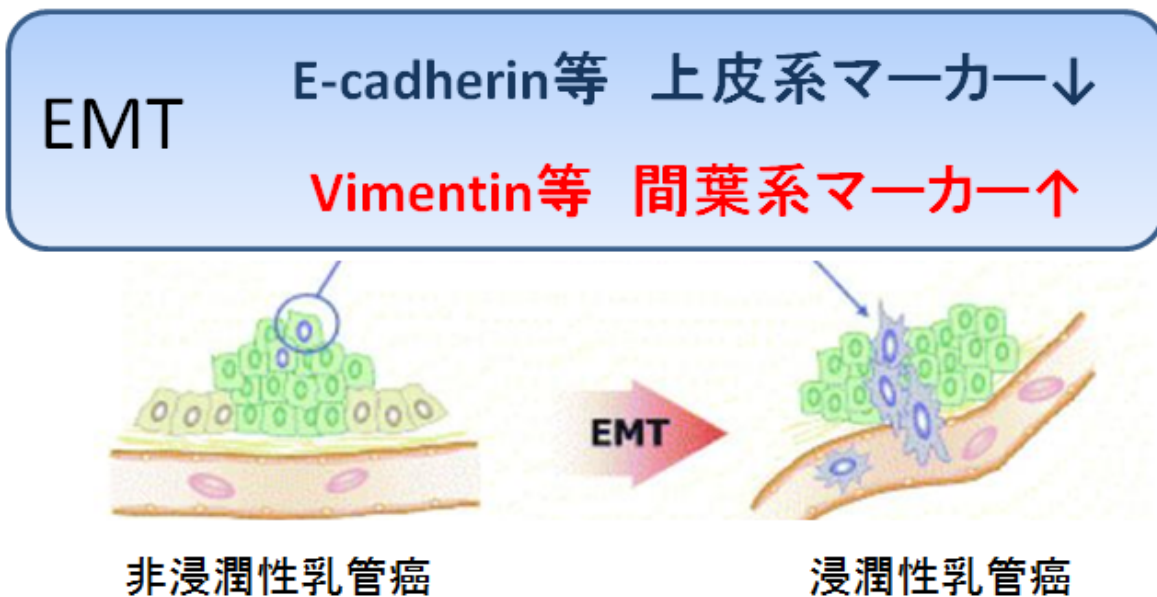


研究課題

「乳癌における上皮間葉系移行(EMT)関連遺伝子の発現と生物学的特性、
予後との関連に関する研究」

【はじめに】

図: 上皮間葉系移行(EMT: epithelial mesenchymal transition)



乳癌は非常に多様性に富んだ疾患であり、癌細胞の増殖や転移の仕方、薬剤の効果も大きく異なります。その仕組みを解明することは乳癌治療成績向上の上で不可欠のものです。上皮間葉系移行(epithelial-mesenchymal transition; EMT)は癌の浸潤転移において重要な役割を果たすと考えられており、新たな治療標的として注目されています。上皮間葉系移行とは癌細胞(上皮)が上皮の性質を失い、間葉系の細胞の様に姿を変え、周囲組織に浸潤していく過程を指します。

今回、私たちは乳癌においてこのEMT関連遺伝子や蛋白(E-cadherin、vimentin、Axl等)の発現状況を調べ、乳癌の性質や予後と関連があるかどうかについて統計学的に解析し、乳癌における意義や新たな治療標的としての可能性を探ります。

【対象】

九州大学病院消化器・総合外科(乳腺外科(2))において1990年1月1日から2011年12月31日までに乳癌の診断で手術を受けられた方の切除標本のうち、約700名を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究内容】

当科で切除された切除標本を使って EMT 関連遺伝子の DNA 量や mRNA 発現量、蛋白発現量を定量的 PCR や免疫組織化学染色で調べます。この結果と患者さんの背景を比較し、乳癌の性質や予後に EMT 関連遺伝子がどう関わっているのか、考察します。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日より平成26年3月31日までと考えています。

【医学上の貢献】

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は乳癌の増殖や転移の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

【研究機関】

九州大学大学院 消化器・総合外科学分野

教授 前原 喜彦 (責任者)

九州大学病院 消化管外科(2)

講師 森田 勝

九州大学大学院 九州連携臨床腫瘍学

准教授 徳永えり子

九州大学病院 乳腺外科(2)

医員 山下 奈真

連絡先: 〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel: 092-642-5466

担当: 山下奈真